

「長いものに巻かれてみよう」

図書館長 坂野 明子

卒論の指導や授業で課すレポートの指導をしていて、「え、嘘でしょ！」と思うことがいろいろあります。一つは学生たちの語彙が加速度的に減少していることです。

数年前に授業中に「糾弾」という言葉を使って、意味を問われたときはびっくりしましたが、最近はそのようなことには余り驚かなくなっています。

ただ、語彙数よりも深刻な問題ではないかと思うことがあります。それは短い文章は読解できるのに、少し長くなると意味を取れない(らしい)ことです。これは英文でも日本語でも同じです。その背景にスマホの普及、ラインでのコミュニケーションなどがあることは間違いないでしょう。皆さん自身よくご存じのように、ラインで入力する言葉は短いだけでなく、しばしば言葉の代わりにスタンプで済ませます。

私も多少はラインを使用し、多少はスタンプも使います。スタンプは可愛らしくて、単調な日常をちょっぴり楽しくさせてくれます。でも、伝えるのは「有り難う」、「ごめん」、「OK!」と言った一語で済むような内容ばかりです。日頃こういうやりとりばかりしていると、長く屈折した文章からは離れるばかりになりはしないでしょうか。

世界の政治シーンでポピュリズムが勢いを増しています。昨年のアメリカ大統領選はその端的な表れでしたが、ポピュリズムもイエスカノーかの選択肢で成り立っています。気に入るか気に入らないかなのです。しかし、政治も、国際関係も、人の心も、デジタル的な「1」か「0」の二択の世界におさまるものではありません。いくつもの因果関係が相互に絡み合いながら一つの現象となって表われるのです。だから、私たちは「1」と「0」の間に何があるかを見極める努力をしなければなりません。そして、それを可能にしてくれるもの、少なくともその助けになるものが、古今東西の知、その集積としての書物、さらには図書館なのです。

図書館にはさまざまな本が入っていて、中にはわかりやすいハウツーものももちろんあります。でも、多くの本は、長くて複雑な文章で書かれており、書籍の森に入っていくと迷子になることもあるでしょう。でも、そういうときスマホのGPS機能に助けをもとめるのではなく、いったんはそこで迷子になってみてほしいです。

そこから自力で抜け出そうとするとき、あなたにはきっと「知の力」がついている筈です。そう、「長いものに巻かれてみてください」、ぜひ！



推薦図書の所蔵情報と著者の紹介もしています！